

[科目名] 環境経済学	[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目 展開科目
[担当者] 青山 直人 Aoyama, Naoto	[オフィス・アワー] 時間: 詳細は授業中にアナウンスします。 場所: 青山研究室	[授業の方法] 講義

[科目の概要]

私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壤などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的なストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生のメカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価といったテーマを取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]

(「授業科目群」・他の科目との関連付け)

環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。

(なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが何に結びつくか)

私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生の原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]

(中間目標)

「環境問題発生のメカニズム」を学習し、環境問題の原因を考える力を養ってほしいと思います。

(最終目標)

「環境問題発生のメカニズム」「環境政策の基礎理論」「環境の価値評価」を学習し、環境問題を解決するために必要なことは何か、環境保全型社会を実現するためにできることは何か、考えてほしいと思います。また、経済学理論の環境問題への応用方法を学習することで、環境問題以外の社会問題を経済学的に考える力を身につけてほしいと思います。

[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]

「黒板の字が小さい」、「説明のとき語尾が小さくてたまに聞き取れないことがあった」等のコメントがありました。板書の字を大きくするようにします。また、説明の際の音量に注意します。

[教科書]

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣、2020年。

日引聰、有村俊秀著『入門 環境経済学 環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002年。

[指定図書]

植田和弘著『現代経済学入門 環境経済学』岩波書店、1996年。

栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013年。

細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007年。

諸富徹、浅野耕太、森晶寿著『環境経済学講義-持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008年。

[参考書]

R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著 大沼あゆみ(訳)『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001年。
板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト 公共経済学』新世社、2013年。

[前提科目]

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。

[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)

期末試験と小テスト(もしくは課題)の成績を用いて総合的に評価する予定です。

[評価の基準及びスケール]

A 80%以上、B 70%以上80%未満、C 60%以上70%未満、D 50%以上60%未満、F 50%未満

[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]

これまでにミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果(授業の理解度等)によっては変更することもあります。

[実務経歴]

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第1章、第6章Unit22)など)
第2回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 第1回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第1章)など)
第3回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生のメカニズム(1)外部性と市場の失敗 内 容: なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit4)、日引・有村(第1章)など)
第4回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生のメカニズム(1)外部性と市場の失敗 内 容: 第3回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit4)、日引・有村(第1章)など)
第5回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生のメカニズム(2)共有資源の利用と管理 内 容: 多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit5)、植田(第9章)など)
第6回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生のメカニズム(2)共有資源の利用と管理 内 容: 第5回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit5)、植田(第9章)など)

第7回	テーマ(何を学ぶか):環境問題発生のメカニズム(3)公共財とフリーライダー 内 容: 環境は公共財として考えられます。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit6)など)
第8回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(1)直接規制と市場メカニズム 内 容: 伝統的な環境政策である直接規制を学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit7)、日引・有村(第2章)など)
第9回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内 容: 環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第10回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内 容: 第9回講義の続き。環境税について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第11回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(3)直接交渉による解決 内 容: 直接交渉による環境問題の解決について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8, 9)、日引・有村(第2, 3章)、諸富他(第3章)など)
第12回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(4)排出権取引 内 容: 排出権取引について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit10)、日引・有村(第3章)、諸富他(第3章)など)
第13回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内 容: 環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1, 2章)など)
第14回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内 容: 第13回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1, 2章)など)
第15回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(2)環境評価手法 内 容: 代表的な環境評価手法の基本的な考え方を紹介します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit16, Unit17)、栗山他(第3~10章)など)
試験	期末試験を行います。